

かぐらおか

(題字は初代学長 山田守英氏)

第 147 号

平成24年 1月 6日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課



食後のお散歩 (神楽岡公園)

(写真撮影：学生支援課)

教授就任にあたり	丘の上ジャズコンサート……………27
リハビリテーション科ってなに? ……大田 哲生……………2	室内合奏団クリスマスコンサート……………27
授業評価……………3	合唱部クリスマスコンサート……………28
平成23年度医学科第2学年後期編入生入学式……………23	プラスアンサンプルクリスマスコンサート……………29
外国人留学生交流事業……………24	ロック研究会ライブ……………29
リーダーシップ表彰……………24	教員の異動……………30
学生表彰式……………25	インフォメーション……………30
「海外留学」を経験して……………目黒 舞……………26	平成24年度授業料の一括納付について……………30



リハビリテーション科ってなに？

リハビリテーション科 教授 大田 哲生

2011年6月1日付で旭川医科大学病院リハビリテーション科教授に就任いたしました。和歌山県出身で、平成元年に慶應義塾大学医学部を卒業いたしました。同年からリハビリテーション（以下、リハビリ）科に入局してリハビリ医療に従事してきております。旭川に赴任する前は、伊豆にあります慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンターに10年余りおりました。旭川に赴任以降、リハビリチームの編成や外来診療の準備を行い、おかげさまで11月からリハビリ科の外来を開始させていただいております。少しずつ皆様の目につくところに顔を出すようになって参りましたので、お見知りおきいただければ幸いです。

さて、皆様はリハビリというと何を頭に思い浮かべになりますでしょうか。けがの後のリハビリやスポーツ選手のリハビリを思い浮かべられる方が多いと思います。つらいリハビリを克服して頑張っている、といったイメージをお持ちの方は多いかと思えます。もちろん、これらもリハビリ医療のなかの一分野ですが、リハビリ医療は守備範囲が広くさまざまな顔を持っています。リハビリ医療って何、とお思いの方に紙面の許される範囲でご説明をさせていただきます。

リハビリ医療とは一言でいうと‘患者さんの生活の質（Quality of life: QOL）を高めるための医療’です。病気やけがなどにより障がいを持つに至った方が、幸せに生活できるように考える医療であるとともに、患者さんに障がいを残さないように予防する医療でもあるのです。

先日、宇宙から無事に地球に戻られた古川宇宙飛行士の映像をニュースでご覧になった方は多いと思います。帰還直後、彼は自力で歩くことができませんでした。宇宙にいる間は無重力のため空間を漂って移動しており、その期間が長かったため足の筋力が落ちてしまったのです。実は地球上でも同じことがおこりうるのです。病気のため臥床期間が長くなると、徐々に足の力は衰えていきます。何日かして

病気が治ったので立って歩こうとすると自力で立てないということがおこるのです。せっかく病気が治ったのにこれでは家での生活ができません。このようなことをなるべくおこさないようにするのもしリハビリ医療の役割の一つです。病気の治療と並行して筋力を保つための運動を行います。病気が治ると同時に以前の普通の生活に戻れるように患者さんの能力維持に努めるわけです。

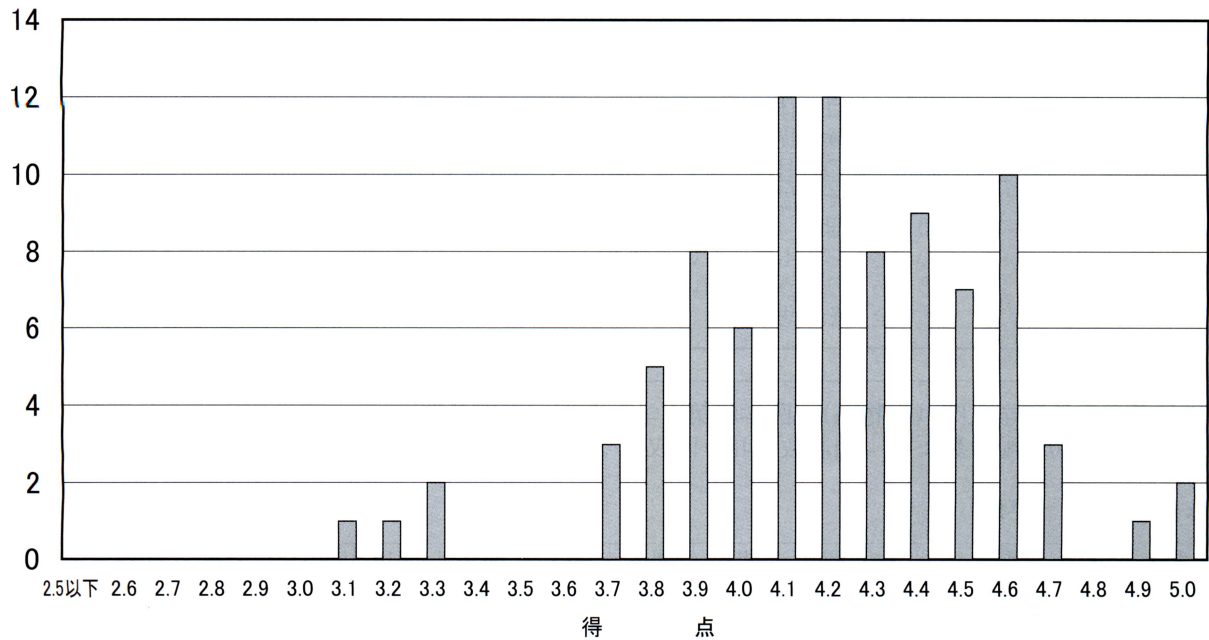
これが医療？と思われる方がいらっしゃるかもしれませんが、病気をもった患者さんに運動負荷をかけることは医療でないといけないのです。患者さんはさまざまな病態をおもちです。みんながみんな座ればよくなる、立てばよくなるというわけにはいきません。座ったり立ったりすることで脳の循環血流量が減り、かえって患者さんの状態が悪くなることもあれば、運動することで血圧が上がり心臓に負担をかけてしまうこともあります。不整脈を誘発することもあるでしょう。また、運動負荷により血糖が変化するため運動中は患者さんの状態を注意深く見守る必要があります。個々の患者さんの病態を把握しながらリハビリを行う必要があるのです。さらに、つらいリハビリでは継続困難なため、患者さんの心理状態をみながら訓練を続けられるようメンタル面に働きかけたりもします。

そのほか、点滴や経管栄養を行っている方が口から食べられるか否か検査を行い、嚥下の状態に応じた訓練を行う摂食・嚥下リハビリや、脳卒中患者さんなどの排尿障害を治療したりするなど、単に運動機能の改善にとどまらず患者さんが日常生活を楽に行えるように医学的に判断して解決策を考えることを行っております。その結果が患者さんにQOLの改善をもたらしてくれると考えております。今後、患者さんの幸せのため、旭川医科大学病院におけるリハビリ医療の発展のために努力していく所存です。旭川医科大学病院リハビリ科、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

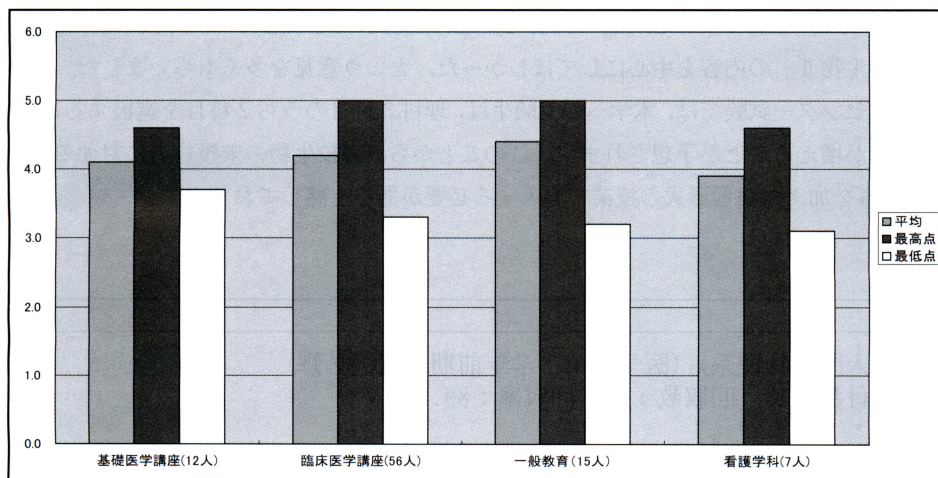
平成23年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得点																									
	2.5以下	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	3	5	8	6	12	12	8	9	7	10	3	0	1	2

(実施人数90名 平均4.2)



部局別教員の平均点と最高・最低点



講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
科目構成	問5 科目全体の履修目的は、履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問6 履修主題間で、内容の過度な重複は避けられていましたか。 問7 各履修主題に割り当てられた時間のバランスは適切でしたか。 問8 担当教員は履修主題に沿って授業を行いましたか。
科目内容	問9 各履修主題の難易度は適切でしたか。 問10 科目全体の内容は理解しやすいものでしたか。 問11 科目全体の履修の目的は最終的に達成されましたか。 問12 科目全体の内容は今後の学習意欲を増すものでしたか。 問13 試験や提出物（レポートなど）の量と内容は適切でしたか。
総合評価	問14 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）
④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通）
② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：自然科学入門（生物系）（医学科第1学年前期／選択必修）

履修者数：50 配付数：50 回収数：48 回収率：96.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.8	4.0	3.3	4.1	4.4	3.9	4.4	3.7	3.6	3.7	3.7	3.9	3.8

*評価に対するコメント

自然科学入門（生物系）担当教員

本講義は、高等学校の「生物Ⅰ」の教科書の内容を中心に解説してきましたが、今回の授業評価では、「生物Ⅰ」よりもむしろ「生物Ⅱ」の内容を中心にしてほしい、という意見を多くもらいました。しかし、平成24年度以降の大学入試センター試験では、本学への受験生は、理科3科目のうち2科目を選択することになるため、高校生物の未履修者が増えることが予想されます。このことから、高校生物の未履修者に対する個別指導を強化し、「生物Ⅱ」の内容を加えた演習形式の授業を導入する必要があると感じております。

科目名：自然科学入門（物理系）（医学科第1学年前期／選択必修）

履修者数：49 配付数：48 回収数：43 回収率：89.6%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.7	3.7	2.7	3.7	3.9	3.2	4.0	3.2	3.1	3.3	2.7	3.7	3.0

*評価に対するコメント

自然科学入門（物理系）担当教員

総合評価（問14）は3.0であり、この結果を真摯に受け止めて講義内容の改善に努めます。科目構成（問5－9）は比較的良好な評価でしたが、復習・宿題（問4）、学習意欲（問12）の評価は2.7という低いものでした。この講義の目的は1年次必修科目の医用物理学を学ぶために力学の基礎を身につけることです。この講義で成績の低かった学生は医用物理学の中間試験で基礎力の不足を実感したことでしょう。地道な努力を続けてほしいと思います。

科目名：自然科学入門（化学系）（医学科第1学年前期／選択必修）

履修者数：13 配付数：13 回収数：12 回収率：92.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.1	4.8	4.3	2.4	4.1	4.4	4.4	4.3	4.3	3.8	4.1	3.7	4.5	4.4

***評価に対するコメント**

自然科学入門（化学系）担当教員

昨年と比べ今年は全般的に改善し一昨年と同様になった。しかし今回、化学Ⅱ未履修者はなく生物Ⅱ未履修者がほとんどであること、毎回のタスクおよび2回の確認試験についてほとんどの者が合格基準を容易に超えたことから、「センター試験の得点で強制的に3科へ振り分ける」、「二次試験の選択内容によっては履修免除」、「理科以外の（数学・統計学等の）企画を用意し選択可能とする」、のいずれかの策が必要と考えている。

科目名：地域医療学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：112 配付数：107 回収数：94 回収率：87.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.9	4.9	3.8	2.3	4.1	4.1	4.1	4.4	4.2	4.3	4.1	4.2	3.9	4.3

***評価に対するコメント**

地域医療学 担当教員

地域医療学の講義内容は、日本の医療システム、臨床研修制度、福祉、介護、政策、医師のプロフェッショナルリズム、住民意識、症例呈示、研究など多岐にわたる。一学年のこの時期に理解してもらうことは困難ではないかと心配したが、杞憂であった。学生の授業に対する積極性もすばらしく、座学終了後の討論などで、教官、学生とも互いに良い情報共有ができたと思っている。今後も旭川医大が目指す地域医療について、教育をすすめた

科目名：情報統計学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：114 配付数：112 回収数：72 回収率：64.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	4.4	4.1	2.9	3.0	3.7	2.8	3.1	2.9	2.4	2.7	2.6	2.9	2.6

***評価に対するコメント**

情報統計学 担当教員

今年度は、これまでにない大変厳しい評価を頂きましたので、早急に改善するよう努力致します。新しく担当された先生との打ち合わせが十分でなかったために、講義の内容、難易度、速さについてシラバスとの乖離がありました。これらの問題に対して、コーディネータが初期の段階で対処しなければなりません。ご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。授業での不十分な部分や授業範囲を超えての内容につきましては、担当教員が対応いたしますので、いつでもお尋ね下さい。

科目名：医療概論1（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：113 配付数：111 回収数：105 回収率：94.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.0	4.9	3.9	4.4	4.4	4.3	4.3	4.4	4.2	4.1	4.0	4.0	3.9	4.2

***評価に対するコメント**

医療概論1 担当教員

医学科1学年対象の必修科目で、コアカリAの中の「医の倫理と生命倫理」に完全対応した講義である。欠席制限が厳しい（3時間以内）、再試を実施しない、いきなり国試過去問を紹介する等、学生にとってはストレスの多い講義だったであろう。出席確認用紙により質問を受け付け、質問はすべて翌週にフィードバックした。今年の受講生は総じて真面目で、授業内容を補完してくれるような「いい質問」をしてくれる学生も少なくなかった。反面、中学生レベルの稚拙な質問や適切な日本語表現を知らないための無礼な質問も若干あった。私自身も正しい日本語を使うよう努力していきたい。評価は昨年より若干上がり、担当教員として結果には一応満足できている。

科目名：心理学（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：113 配付数：111 回収数：90 回収率：81.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	4.6	4.0	2.8	4.3	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4	4.3	4.4	4.3	4.6

***評価に対するコメント**

心理学 担当教員

本講義の目的は、全人的な医療の実践に必要な心理学の基礎知識を体系的に修得することであった。講義は基礎心理学・臨床心理学・発達心理学の3分野からなっていた。

科目構成（問5から問8）の評価結果は3.9から4.2とおおむね良好であった。科目構成についての評価は、4.2から4.4と高かった。また、科目内容（問9から問13）についての評価も、4.3から4.4と高い結果となった。さらに、総合評価は4.6とかなり高い結果が得られた。

全体的に高い評価が得られた理由としては、各分野の基礎知識を精査してその分野の専門家が担当したこと、プリントを毎回配布したこと、心理検査を多く取り入れたこと等が考えられる。一方、試験範囲が広い、テストの量が多い等という意見も一部に見られた。これらについては、次年度以降の反省材料としたい。

科目名：医療概論2（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：111 配付数：104 回収数：83 回収率：79.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.1	3.6	2.8	3.7	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9

***評価に対するコメント**

医療概論2 担当教員

臨床概論2では、医療や臨床研究に関する倫理的・哲学的な内容が中心で、医師として適切に社会へ対応できる考え方を築く重要な科目です。特に予習があまりされていないようですが、シラバスを見て最低限の準備をしていただくと良いと考えます。

科目名：組織学（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：118 配付数：116 回収数：65 回収率：56.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.4	4.0	4.0	3.5	4.1	3.9	3.9	4.1	3.6	3.7	3.9	3.9	3.5	4.0

***評価に対するコメント**

組織学 担当教員

新カリキュラムで本科目の開講時期が2年次前期に変更になって2年目となった。前年度と同様に、本科目では成績判定基準を事前に周知するとともに試験結果を詳細にわたり公開し、公正で透明性の高い成績評価を心がけている。そのため「授業評価」のコメント欄に以前に見られた成績評価に関する学生からの理不尽なクレームは少なくなり、ほっとしている。

科目名：生化学1（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：111 配付数：102 回収数：87 回収率：85.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	3.8	3.7	3.3	4.1	3.8	3.7	4.1	3.5	3.3	3.6	3.4	3.4	3.7

***評価に対するコメント**

生化学1 担当教員

生化学1は代謝の基本的な部分に関する内容で、2年次では医学部らしい講義と言えます。御意見は2つ、難解・勉強不足(8/10)、面白い(2/10)でした。例年はこのプリントが分かり難いとか、講義のこの説明が不十分であるとか、もっと突っ込んだ具体的な指摘を頂くのですが、今一つ手応えがありません。本試不合格者が40名と前代未聞の不成績だったということもあり、評価項目についても解析した所、2点以下の低評価の多い項目は、問1：予習(41/87)、問4：復習(22/87)、問10：理解(16/87)、問13：試験・レポートの量と内容(19/87)、の4つで、要するに勉強しないので理解できず不合格になるという、至極当たり前の流れであったということで、何ともコメントの仕様がありません。過去問も8年分、事前に余裕を持ってお渡ししており、過去問プールの一通りやっければ、この成績ということはありません。講義の内容については、歴代履修者の皆様からの評価を取り入れながらブラッシュアップしてきており、今回からいきなり難解になったということは決してなく、このことは過去問をみて頂ければご理解頂けると思います。高度専門職を目指す医学部のカリキュラムでは、普通には見たことも聞いたこともない単語や概念が次から次へと出てきて、始めはとりあえず詰め込んで行くしかありません。これは組織や解剖、生理、病理、法医、公衆衛生、など臨床も含めた全ての科目に言えることで、知識の大枠がある程度飽和して全体像が何となく見えてくるのは4年生の終わり頃でしょう。医学部入試の難関を突破して来た諸君のすばらしい頭脳も、常に鍛えて行かないと落ちてきます。微積分やMaxwell方程式は出てきませんが、普段から少しづつ積み上げていく点は受験勉強と変わりありません。医学は日々拡大し社会的要請も高まっている現状を理解し、21世紀の医師を志す諸君には、日々精進する姿勢が是非とも必要であることを理解して頂きたいと存じます。

科目名：生化学2（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：118 配付数：111 回収数：78 回収率：70.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.4	4.1	3.4	4.0	4.1	3.8	4.1	3.5	3.4	3.8	3.7	3.4	3.7

***評価に対するコメント**

生化学2 担当教員

生化学2は生化学1に引き続いて人体を機能させている代謝について、病態と関連付けて紹介しています。本試不合格者が生化学1より半減したことは、やればできる、医師を目指す心構えが固まってきている様子が窺え、ちょっと嬉しく思っています。主な御意見は2つ、難解・分量過多(7/16)、面白い(4/16)でした。前者については、昨年度から後期開講の基礎1に含まれていた部分が前倒しになっていますので、ある程度理解できます。が、医学部に入学した以上、これは宿命としか言いようがありません。何故、医師が高度専門職と言われるのか、面接のときに諸君が述べていた医師を志す熱い思いを、もう一度初心に帰って思い起こして頂きたいと思えます。次から次へと出てくる、普通には見たことも聞いたこともない単語や概念を、とりあえず詰め込んで行くのは、古今東西、医学生の宿命です。まだまだ先は長い、解剖、生理、病理、法医、公衆衛生、臨床科目ですが、必ず飽和して閉じた世界であることが見えてきます。その時が、ポリクリに出て患者さんに直に接する準備が整った時となるでしょう。面白いという評価の中にもありましたが、人体とはすなわち我々の体です。その機能する仕組み、病態との関連、コレステロールが増えるとはどういうことなのか、黄疸とは何か、痛風とは、既に諸君は一般の人にはできない説明ができるようになっています。頑張って精進を続け、良い医師を目指して下さい。もちろん、人生のこの時期にしかできないことも多々ありますし、知識だけで良い医師になれるということもありません。存分に旭医を堪能し貪り尽くして、良い医師になるための糧として頂きたいと思えます。

科目名：免疫学（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：110 配付数：104 回収数：42 回収率：40.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	3.8	3.7	3.1	3.8	3.7	3.8	4.0	3.7	3.8	3.8	3.9	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

免疫学 担当教員

今年度の科目構成について問5～8について、評価ポイントは3.7～4.0、また科目内容については、問9～13では3.7～3.9ポイントと昨年度とほぼ同じであった。講義内容としては、免疫システムを理解するため、内容を広くカバーしており、学生の意欲により理解度に差が生じると考えられる。自学自習の自己評価ポイントも問1（2.6>2.9）、問4（2.8>3.1）とも昨年度よりそれぞれ0.3ポイント上昇したが、多くの学生は、自己理解度評価を適宜行い、積極的に取り組む姿勢が必要と思われる。

科目名：医用機器学（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：111 配付数：109 回収数：97 回収率：89.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	3.8	3.4	2.7	3.7	3.4	3.7	3.9	3.7	3.4	3.6	3.4	3.8	3.6

＊評価に対するコメント

医用機器学 担当教員

医用機器学として第2学年前期に開講しているが、2年間の総合評価は3.6と固定した状態にあり変更の時期にきていると判断している。来年度は、医用機器のみではなく医用材料も範囲として再編を予定している。

科目名：医療概論3（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：104 配付数：103 回収数：73 回収率：70.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	4.5	4.0	2.6	3.9	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2	4.2	3.9	4.1	4.2

＊評価に対するコメント

医療概論3 担当教員

医師・医療に関する法規、社会保障制度、医療政策、医師の倫理、職業としての医師、医療廃棄物（処理現場での実習も含む）など広範な内容についてオムニバス方式で展開しました。総合評価は比較的高かったと思います。医師として医療活動する際に必要な知識などを広く扱いましたが、全体としての目的が捉え難く、記憶中心の事柄も多く、学習意欲が高めにくかったようです。将来の自分の活動に関わる事として考えさせる工夫をしたい。

科目名：消化器医学（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：104 配付数：98 回収数：66 回収率：67.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.0	3.9	2.9	3.9	3.1	3.6	4.0	3.8	3.9	3.8	4.0	3.8	4.0

***評価に対するコメント**

消化器医学 担当教員

点数としては、問1、問4、問6が低く、問1、問4、は本人の問題で学習意欲や態度に影響されることが多く、教員の関与できる部分は少ないかもしれない。

問6の内容の重複については、特に非常勤講師について、同じ課題を講義してもらっても多く、重なりが多くなった事は否めず、今後は学生の感想の中にもあるように、非常勤講師には得意な分野をビデオなどをふんだんに使って講義していただくよう依頼したい。

科目名：臨床医学概論Ⅲ（医学科第4学年前期／必修）
履修者数：94 配付数：77 回収数：33 回収率：42.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.8	4.9	3.5	2.1	4.2	4.1	4.1	4.3	4.1	4.2	3.8	3.4	3.4	3.7

***評価に対するコメント**

臨床医学概論Ⅲ 担当教員

チーム医療の重要性を認識してもらい狙いがある。各コメディカルのお話は臨床実習以降の充実につながることを期待している。今年の総合評価は3.7で昨年3.4一昨年の3.3よりは若干改善したが依然として低い評価であった。しかし、本コース以外には卒前卒後にもまとめてコメディカルから直接、各部門の業務についてを聞く機会はない。卒後、臨床医として第一線で働く際には、このコースで勉強した事が各自の役に立つものと信じている。

科目名：社会医学（医学科第4学年前期／必修）
履修者数：94 配付数：94 回収数：68 回収率：72.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.2	4.1	3.4	4.1	4.1	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.2	4.2	4.4

***評価に対するコメント**

社会医学 担当教員

社会医学は法医学と衛生・公衆衛生学領域が含まれており、臨床医学ではありませんが、医学と社会制度や法律までにまたがる比較的ボリュームが大きい大変な科目でした。次年度からは、「法医学」と「衛生・公衆衛生学」、「臨床疫学」に分かれたカリキュラムとなりますが、ぜひ予習・復習を欠かさず勉強して下さい。

科目名：臓器別・系別講義Ⅶ（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：94 配付数：94 回収数：72 回収率：76.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.0	3.9	3.3	3.7	3.6	3.7	3.8	3.7	3.7	3.8	3.8	3.4	3.8

***評価に対するコメント**

臓器別・系別講義Ⅶ 担当教員

臓器別・系別講義Ⅶは産婦人科，小児科を主にし，泌尿器科，救急，外科にまたがる広範囲な授業科目であり，授業内容も多岐に渡るため学生にとっては負担が多い科目である。それにも関わらず，ある程度の評価を受けているものと判断できる評価結果であった。今後は更に授業意欲を増すような授業内容の改善を図っていきたいと考えている。

科目名：臓器別・系別講義Ⅷ（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：94 配付数：94 回収数：80 回収率：85.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.1	3.7	2.7	3.7	3.6	3.6	3.9	3.7	3.6	3.7	3.8	3.4	3.7

***評価に対するコメント**

臓器別・系別講義Ⅷ 担当教員

臓器別・系別講義Ⅷは，整形外科，麻酔科蘇生科，救急科の3科で構成されており，履修内容も非常に幅広い内容となっている。そのため，講義のスライドや配布資料も相当なものになるため，本年度は麻酔，救急分野を1冊子に集約，講義の理解や復習の際に役立つとのことで非常に好評を得た。新年度から本講は麻酔・集中治療領域と整形外科領域に2分割される。これを機に科目構成および履修内容に関して見直しを図り，より中身の濃いまとまったものになるよう改善しているところである。

科目名：臨床放射線学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：94 配付数：92 回収数：72 回収率：78.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.4	3.8	3.0	3.9	4.2	3.7	4.1	3.7	3.5	3.8	3.9	3.5	3.8

***評価に対するコメント**

臨床放射線学 担当教員

学生諸君にはアンケート協力を感謝します。講義時間が限られているので教科書による自己学習は必須です。個人情報保護の為にデータ配布が出来ない場合もある点は了承下さい。教育センターへの要望として，結果的に講義内容が重複する場合があるので（解剖など），必要に応じて検討して頂きたいのと，教官サイドも多忙を極めている現実を理解して頂き教育システムに関する業務は短時間に省力化して行えるよう配慮をお願いします。

科目名：情報リテラシー（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：58 回収数：55 回収率：94.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.8	4.5	3.8	2.5	3.5	3.6	3.6	3.7	3.5	3.4	3.5	3.2	3.5	3.5

***評価に対するコメント**

情報リテラシー 担当教員

出席に関する問2の回答で“2”と答えている人がいますが、出席状況は大変良好です。問3で回答が“4”や“5”とならない履修者は、勉学の姿勢に問題があります。入学直後の1年生の段階では、高校での教育の差が影響し、授業の内容の難易度が一律には処しきれない状況があります。授業の内容に不足を感じる履修者には、個人の能力に合った指導を行いますので遠慮なく尋ねてください。慣れない人は、レポートの作成を通して徐々に上達しますので焦らずにじっくりと取り組みましょう。わからない場合には、投げ出すのではなく質問をしたりする努力が必要です。

科目名：生命科学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.2	4.2	3.8	2.6	3.9	3.9	4.0	4.1	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8	4.1

***評価に対するコメント**

生命科学 担当教員

本年度の総合評価は昨年度より0.1ポイント低下したが、ここ数年、評価は一定している。ただ、問9や問11-13は3.8とやや低いことから、シラバスの内容を含め、全体的に見直す必要性が考えられる。講義後の質問カード対応やオフィスアワーの活用を促し、学生の習熟度を高める創意工夫などの授業改善にも取り組みたい。

科目名：看護基礎物理（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：50 回収数：50 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.9	4.2	3.5	2.2	3.6	3.8	3.6	3.8	3.6	3.6	3.6	3.0	3.8	3.6

***評価に対するコメント**

看護基礎物理 担当教員

この看護基礎物理は高校で物理を履修していない学生に合わせた内容にしています。今年は内容を少し詳しくしたのですが、学生にとっては理解するのが難しかったようです。わかりやすく理解できるように改善してゆきたいと思います。

科目名：看護化学（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：59 回収数：52 回収率：88.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.7	4.6	3.4	2.0	3.3	3.5	3.5	3.5	3.2	2.9	3.0	2.5	3.0	3.0

***評価に対するコメント**

看護化学 担当教員

問1、4および12が平均3以下の低い評価を受け、問2が高い点である。以上から、受講生は、出席するが講義に余り関心が湧かず、自己学習をしていないと判断できる。

期末試験の成績は非常に良い答案から、知識が不正確で記述をふくめ評価できないものまで広く分布し、学生自身の授業評価を反映しているとみられる。看護化学は担当者が今年から変更になった。講義内容をよりわかりやすいテーマに選別し受講者の関心を高めたい。

科目名：医療史・医療哲学（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：47 回収数：47 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.6	4.5	3.9	1.8	3.8	4.1	3.9	4.0	4.0	4.2	3.9	4.0	4.0	4.1

***評価に対するコメント**

医療史・医療哲学 担当教員

看護学科1年生の必修科目であり、医療史を学ぶことを通して医療のより良いあり方を思索する教養科目と位置づけている。DVDの活用、学生参加型の講義、文書によるフィードバックは「看護社会論」と同様である。歴史・哲学関係の科目にありがちな抽象的・観念的話は努めて避けた。「看護社会論」同様、昨年に比べて準備不足の感は否めず、評価は若干下がったが、担当教員として評価結果には納得もし、かろうじて合格点ではなかろうかと自負している。しかし、学内雑務に追われていることは評価低下の言い訳にはならない。来年度が正念場であると自戒している。

科目名：看護社会論（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：47 回収数：47 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
1.6	4.5	3.9	1.9	3.8	4.1	4.0	4.0	4.0	4.2	3.9	4.1	4.0	4.2

***評価に対するコメント**

看護社会論 担当教員

旧カリでは複数教員による「人間科学Ⅱ」2単位であり、これは科目名もコンセプトも曖昧で、学生の評判はよくなかった。新カリでは「看護社会論」「医療史・医療哲学」各1単位に分け、計30コマをすべて私が担当して3年目になる。「看護社会論」は、入学直後の学生が将来展望を切り拓くための教養科目と位置づけ、DVDを積極的に活用した。講義はクイズ形式とし学生の参加を促した。毎回作文を書かせ、質問はすべて翌週にフィードバックした。本年度は、私の管理運営業務が増えたことに伴う準備不足のためもあって、評価は昨年より若干下がったが、かろうじて合格点は取れたものと自負している。

科目名：健康教育論（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：58 回収数：55 回収率：94.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	4.5	3.3	3.2	3.6	3.2	3.3	3.3	3.6	3.5	3.4	2.9.	3.4	3.3

＊評価に対するコメント

健康教育論 担当教員

学習シートに沿って予習・授業・復習を進め、それらをポートフォリオとして提出させ、フィードバックするという一連のプロセスで、「自ら学習！」を定着させることを目指しました。「単元内容は興味深いものでした」との記載もあり浸透しつつあるようです。「ポートフォリオ もう少し早く返ってくると嬉しい」との記載もあるので、より迅速にフィードバックしたいと思います。

科目名：基礎看護学概論（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.6	3.7	3.1	4.1	3.9	3.9	4.3	3.9	3.9	3.8	3.7.	3.5	3.9

＊評価に対するコメント

基礎看護学概論 担当教員

本科目のねらいは、医療の中の看護の目的、役割機能について各自の回答を探究することです。この理解に欠かせないのが人間の特性、人にとって健康の意味、環境と健康生活の関係を知ることです。そのための初歩的で基礎的な学習を求めた授業でした。しかし、皆さんにとって抽象的な学習は難解なものであることは十分理解しています。看護を初めて学ぶ皆さんにやさしく、わかり易い講義方法や、医療・看護の臨場感のある教材やロール・モデルの活用などの工夫を今後も継続したいと思います。

科目名：統計学（看護学科第2学年前期／必修）
履修者数：59 配付数：59 回収数：55 回収率：93.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	4.6	3.7	2.8	4.0	4.1	4.2	4.3	3.7	3.6	3.8	3.6.	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

統計学 担当教員

問14の評価では、評価5（25名、45%）、評価4（19名、34%）、評価3（7名、13%）、評価1、2（4名、8%）の評価を頂きました。コメントを読みますと、進行の速さや、わからない時の対応について改善されたことが評価されました。個々の問では、1、2と評価する履修者がおりますが、改善すべき内容を示すコメントが1件もありませんので、今後は是非コメントを頂きたいと思ひます。

科目名：公衆衛生論（看護学科第2学年前期／必修）
履修者数：59 配付数：55 回収数：45 回収率：81.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.6	3.6	3.4	3.5	3.2	3.4	3.5	3.6	3.4	3.4	3.2	3.2	3.2

***評価に対するコメント**

公衆衛生論 担当教員

「わかりやすく工夫しているのがわかる講義でした」という記載と、「授業にメリハリがなく、世間話と必要な話が混ざっていて聞いていてわかりにくいし、疲れる」との記載がありました。予習シートには教科書をよく読んで要点を図解や表作成することを示し、授業では発表させたり、教員が工夫した図解や表を配付し、理解を深めるよう努めました。そして、学習成果物（ポートフォリオ）を提出させ、フィードバックするという一連のプロセスを進めてきました。また、JICA母子保健研修の前に母子保健の内容を集中して取り上げ、JICA研修員からのプレゼン聴講に役立てるようにしました。JICA研修の話題や、東日本大震災でのDMATチームの活躍や公衆衛生版DMAT構想などを話題にしました。予習をした学生にとっては分かり易いし、達成感もあったものと思います。ところが、基本的な用語を問う小テストで、しかも22%の学生が7割以上得点し満点も居たにもかかわらず、54%の学生が再試となりました。専門職の勉強で、準備もしないで分かり易い何ぞ、在ろうはずがないのです。

科目名：発達心理学（看護学科第2学年前期／必修）
履修者数：59 配付数：58 回収数：58 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.3	3.9	3.6	4.1	4.4	4.2	4.4	4.3	4.2	4.3	4.2	4.0	4.3

***評価に対するコメント**

発達心理学 担当教員

学生自身についての評価では、「出席」と「努力」が4.3、3.9と高かったが、「予習」の評価は2.7と低かった。今後は、予習の指導につとめる必要がある。

一方、科目構成についての評価（問5から問8）は4.1から4.3という高い評価が得られた。また、科目内容についての評価（問9から問13）も、4.0から4.3と高い評価であった。このことから、全体の進行や指導力は適切であったと思われる。

また、全体の満足度は4.3であり、比較的高い結果となった。これは、発達心理学の基礎知識を精査して講義を構成したこと、学生の理解を深めるために一部に実習形式の授業を取り入れたこと、スライドやビデオを併用したこと、資料プリントを毎回配布したこと等によるのではないと思われる。

科目名：看護過程論（看護学科第2学年前期／必修）
履修者数：59 配付数：58 回収数：47 回収率：81.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
4.1	4.9	4.5	4.4	4.4	4.4	4.2	4.5	4.2	4.4	4.4	4.4	3.8	4.3

***評価に対するコメント**

看護過程論 担当教員

この科目は、紙上事例を用いて個人学習とグループ学習により看護過程を学ぶ。ほぼ毎週、課題提出が課され、問13は3.8と若干低値であった。みな真面目に学習に取り組み、全体発表会も活発であった。グループ学習指導に際して、教員間で事前に指導の方向性を統一した。しかし、教員の表現や学生の理解の仕方によって方向性が違うと言う意見があったので、次年度の参考にする。

科目名：地域保健看護学Ⅰ（看護学科第2学年，編入第3学年前期／必修）

履修者数：69 配付数：65 回収数：64 回収率：98.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.4	3.8	3.5	4.2	4.2	4.3	4.4	4.4	4.0	4.2	4.1	4.1	4.4

***評価に対するコメント**

地域保健看護学Ⅰ 担当教員

授業を進めるにあたり，看護の本質を学生のレジネスに合わせ「どのような内容をどのように伝えていくか」という教育観，教材観，教育方法については日々腐心するところです。ここ数年，言い逃れですが管理・運営業務に追われ授業の準備が非常におろそかになっていたことが自分自身の反省点でした。学生に対して申し訳ないという思いを持ち続けていました。今回，評価点が（学生による授業評価で）「科目構成」「科目内容」の各項目は4点以上で「総合評価」4.4点という予想外の結果に驚くと共に思わず安堵の胸を撫で下ろしました。

科目名：保健福祉行政論Ⅱ（看護学科第3学年，編入第3，4学年前期／必修）

履修者数：79 配付数：75 回収数：71 回収率：94.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.0	4.0	2.7	2.3	3.0	3.3	3.1	3.4	2.9	2.6	2.9	2.5	2.9	2.7

***評価に対するコメント**

保健福祉行政論Ⅱ 担当教員

予習，復習，宿題の項目のポイントが良くありませんでした。最初の時間に，プログラムと，教科書の関連ページを示した文書を渡しましたが，より早く渡すことも考えます。復習問題をお渡しし，重要点がわかったとのコメントもありましたが，全体でよくなかったのは，提出を義務づけなかったからでしょうか。進み方や話し方が早いとの指摘がありました。短期間に集中講義でたくさんの内容を話さなければいけないのでどうしても早くなります。常勤の講師を確保されたら，もっとゆっくりできると思います。授業の入れ方がおかしいとのコメントは意味がわかりませんので，お答えできません。

科目名：成人看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：55 回収数：48 回収率：87.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	4.4	3.8	3.5	4.1	4.1	3.7	4.2	3.8	4.0	3.9	4.3	3.6	4.2

***評価に対するコメント**

成人看護学Ⅱ 担当教員

成人看護学Ⅱの学生評価は，概ね好評であり周手術期の看護に興味を持って取り組めたように思います。内容が多く展開が速すぎるという意見もありましたが，既習学習内容を再度説明する必要がなくなるように，事前学習などを明示したいと思います。

科目名：地域保健看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：70 配付数：68 回収数：65 回収率：95.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.3	3.9	3.8	4.2	4.1	4.0	4.4	4.2	4.2	4.2	4.2	3.8	4.2

＊評価に対するコメント

地域保健看護学Ⅱ 担当教員

将来、保健師を目指すかどうかによってこの科目に興味をもっていただけるかどうかが決まってくる。しかし現実には全体の1割ほどしか保健師を目指さない。つまりほとんどが興味をもたないであろうマイナスからのスタートである。よって、学生自身に興味と関心をもってもらうためにはなんらかの工夫が必要であり、教員としてのスキルをいつも問われている気持ちになる。保健師にならなくても、広い視野で予防の段階から人々の健康を考えていける看護師になってほしいので、講義では熱く語っているが、個人のケアを中心に学んでいた学生にとっては非常にわかりづらい科目であると推測される。しかも30時間でお伝えするには、講義も駆け足であり、宿題も必然的に多くなる。そこをどうにか耐えて頑張ってもらいたいと思う。自由記載には「最初はいやいや宿題をしていたが、やったことに対してコメントをくれるので徐々に宿題が楽しくなった」と書いてあり、一方通行でない教育の重要性を痛感する。今年度の評価は、問12学習意欲を増したか4.2点、問14満足できるものか4.2点だったので、おおよそ、興味をもって学習していただけたのではないかと評価している。全体的に高い評価を得られ、学生のみなさんの努力に感謝したい。

科目名：家族看護学（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：69 配付数：69 回収数：57 回収率：82.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.0	4.5	3.2	3.2	2.6	2.4	2.6	2.6	2.5	2.1	2.3	2.1	2.6	2.1

＊評価に対するコメント

家族看護学 担当教員

評価項目中最も高い評価は、「授業に毎回出席したか」の4.5。学生自身について「事前の予習」が2.0で最低。授業中の努力や復習・宿題に関して3.2。学生評価を通して今日思うことは、「このような学習の取り組みでは講義が良く理解できるはずがない」ということ。大学で学ぶことをどう考えているのでしょうか。高校の延長？学ぶことに人間として真摯に取り組んで欲しいと願い、信じて待つ心境です。

科目名：がん看護学（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：69 配付数：64 回収数：56 回収率：87.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	4.5	3.5	3.4	3.6	3.3	3.3	3.8	3.4	3.3	3.4	3.2	3.3	3.3

＊評価に対するコメント

がん看護学 担当教員

「がん看護学」は、平成23年度3学年前期から学習する新科目です。わが国の3人に1人ががんで亡くなる今日、学生の皆さんの評価からは、関心が高く、積極的に出席されたことがわかりました。講義に続き、がん患者事例についてのGWを中心とした演習と看護計画に沿ったロールプレイによる看護技術の習得を目指したことで、学生の皆さんは、がん患者を中心とするチーム医療におけるがん看護の役割とそれに向けた基本的な自己課題を明確にできていました。一方で、がん看護は内容が豊富ゆえに限られた時間の中で、効率的、効果的授業展開に改善の余地が示されました。今後は、この評価を糧として、工夫に取り組みたいと思います。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い） ④ やや思う（良い）
 ③ どちらとも言えない（普通） ② あまりそう思わない（あまり良くない）
 ① 全くそう思わない（良くない）

科目名：基礎生物学実習（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：112 配付数：109 回収数：105 回収率：96.3%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.7	4.9	4.6	4.6	4.7	4.5	4.8	4.7	4.3	4.6	4.3	4.3	3.8	4.3	4.5	4.7	4.7	4.6

*評価に対するコメント

基礎生物学実習 担当教員

総合ポイントは4.6で、昨年度と同様に高い評価でした。この実習ではヒトや動物の細胞・組織を使った顕微鏡観察、小動物の解剖と発生、DNAの電気泳動など2年次からの基礎医学実習につながるような内容をできる限り取り入れています。また、実習経験のほとんどない1年生が対象であることから、常に3～4名の教員が指導に当たって学生からの質問に対応するよう心がけています。学生の意見や感想をみると、企画だけでなく、このような指導体制も評価されているようです。今年度はレポートを手書きにしました。予想したとおり、問13のポイントは他に比べ低くはなりましたが、来年度も続ける予定です。

科目名：基礎生化学実習（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：112 配付数：108 回収数：104 回収率：96.3%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.8	4.3	3.9	4.5	4.0	3.7	3.7	3.8	4.2	3.9	3.8	3.6	3.5	3.7	4.1	4.1	3.7

*評価に対するコメント

基礎生化学実習 担当教員

昨年と比べ今年は全般的に改善している。しかし実験テーマでは電子天秤やオートピペットといった器具の扱い、試薬の調製といった基礎的技術の修得が不十分な学生が後を絶たず頭が痛い。1班7名での共同作業であるため、これら個人のミスがレポートではデータのバラつきで隠されてしまう。より個人の習熟度を正確に評価できる方法を検討する。指摘された換気の騒音や指示の聞き取りにくさは、建物の改修により改善される見込みである。

科目名：生化学実習（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：110 配付数：107 回収数：92 回収率：86.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.5	4.8	4.4	4.2	4.4	4.4	4.5	4.2	4.4	4.4	4.3	4.2	3.9	3.9	4.1	4.3	4.3	4.2

***評価に対するコメント**

生化学実習 担当教員

生化学1, 2における生化学分野の講義が第2学年前期に集中することにあわせ、その過程で実習を展開するものとしてカリキュラムが計画されている。生化学1の試験を実習直前に行ない、実習実施に不可欠な知識を確実に身につけていただき実習に取り組めるようにもくろんでいる。これにより、生化学および基礎医学研究に対する親和性と興味、理解の促進に繋がったと判断される（問9：4.4）。“あなた自身について”（問1～3）の高い評価値（4.5, 4.8, 4.4）に顕著に現れたように、皆さんが自ら興味を持って積極的に実習に取り組んでくれたことは教員としてたいへんありがたい。他の評価項目（実習計画・内容・環境、総合評価）のいずれも、問13および14（提出物の内容・量、および今後への意欲）が3.9であった以外、4.1～4.5と良い評価を得た。指導担当者の指導能力および指導担当者間の差異・連携の適切性についても、“緻密な連携による丁寧な実習指導”を目指し改善を積み重ねてきた結果、評価点（4.5, 4.2）および自由記載コメントにも良い結果として現れた。また、各教員それぞれが持つ高くユニークなポテンシャルを感じることができた学生の皆さんも多くいたことはたいへん喜ばしい。2週間の長丁場にもかかわらず集中を切らさず取り組めたこと、またチームワークの重要性を認識できた方が多くいたことは、実習の他の側面としての意義も十分果たされたと感じている。一方、皆さんが実験や解析を進める上で直面する数々の問題については、まずは、自ら解決するための思考と試行を実践するよう、今後も心がけてほしい。臨床医としてまた医学研究者として将来の活躍を期待される皆さんには、自身の問題解決能力と姿勢を高めるよう、そして論理性や創造性をさらに培っていくよう期待したい。そのためのお手伝いが、学生と教員の接触の場である実習を通してできれば教員としてたいへんありがたいと考えています。

科目名：骨学実習（医学科第2学年前期／必修）
履修者数：108 配付数：106 回収数：97 回収率：91.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.2	4.7	4.3	4.0	4.4	4.1	4.3	3.9	4.0	4.3	4.1	4.3	4.3	4.2	4.1	4.2	4.3	4.3

***評価に対するコメント**

骨学実習 担当教員

学生の評価はほとんどが4点以上であり実施担当者として満足のいく結果であった。教員間の連携（問8）についてはやや低めの評価となったが、一部担当講座間で重複した課題が課せられたとの指摘があり、この点が反映したと考えている。しかしながら一見重複した課題でも観察の視点が異なっており、今後課題の内容について学生に深く理解させるように指導したい。次年度はこれらの評価を踏まえて実習体制の改変を行う予定である。

科目名：生理学実習・演習（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：104 配付数：100 回収数：66 回収率：66.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.7	4.6	4.3	4.6	4.4	4.4	4.2	4.4	4.4	4.2	4.2	3.7	4.1	4.0	4.2	3.9	4.2

***評価に対するコメント**

生理学実習・演習 担当教員

生理学実習・演習は、生理学を臨床的な側面からも深く理解できるように、循環・呼吸・神経病態内科・保健管理センター、臨床検査医学講座の協力を得て実施してきた。本年度からは、脳機能医工学研究センターの協力を得て実習のさらなる充実をはかっている。本年度の総合評価は4.2と向上し、基礎医学実習Ⅱからつづく生理学実習の中では、最高の評価を得た。これは、実習に関わる全教員の教育に対する取り組みが評価されたものと考えている。本実習は、テーマごとにレポートの提出を求めている。論理的に考察し、文章を書く機会が以前と比べて極めて減少している現状を憂慮し、各課題に関するレポートの提出を求めることが担当教員のコンセンサスとなっている。学生からレポートの量が多いとの指摘もあるが、これからも従来通り、全課題に対するレポートの提出をもとめていきたい。

科目名：薬理学実習（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：104 配付数：99 回収数：86 回収率：86.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	4.9	4.6	4.4	4.6	4.5	4.6	4.6	4.4	4.6	4.4	4.4	4.3	4.4	4.4	4.6	4.5	4.5

***評価に対するコメント**

薬理学実習 担当教員

薬理学実習では、生体に薬物を投与し、どのような作用が現れるかを観察し、得られた結果から妥当な結論を考察することにより、講義で得た知識を定着させることを目的としている。今回の実習に対する評点は、すべての項目で高いものであったが、実習では、予想通りの結果を得ることができない場合もあった。このような場面で、何が良くなかったかを考えることを是非心がけて頂きたいと思う。薬理学に限らず、多くの分野で予想と違った結果から新しい知見を得ることが多いからである。今後も、より充実した実習を目指すために、いろいろな意見を遠慮なく頂きたく思っている。

科目名：微生物学実習（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：104 配付数：99 回収数：98 回収率：99.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.9	4.7	4.4	4.3	4.4	4.3	4.3	4.1	4.2	4.3	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.2	4.3	4.1

***評価に対するコメント**

微生物学実習 担当教員

基礎医学実習Ⅳとして統合されていた実習から、微生物学実習として独立して最初の年でしたが、受講学生諸君の評価は問1を除いて全て平均4点以上であり、高い評価をいただけたと思います。問1「事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか」に対しても、3点以上が約90%に達しており、実習書の事前通読は定着して来ていると思われまます。自由記載の欄に「実習の説明が長過ぎる」との意見が4件、「(オートクレーブ等の)待ち時間が長過ぎる」との意見が1件ありました。後者の「待ち時間」については、「無菌培地の作成」や、「増殖した病原体の滅菌処理」等を含む微生物学実習の内容から「長くならざるを得ない」ので、実習書にもその旨明記してあります。「出来上がった培地」を使う実習等にすればこの問題はなくなりますが、実習としては「薄い内容」になってしまいますので、現在のところ変更する予定はありません。前者の「説明が長過ぎる」については、「生きている病原微生物を扱う実習」であることから、実習自体の「安全性を確保するための操作法の重要点」を十分に解説することに主眼をおいて説明内容を組み立てているために、「話がくどくなっている」ことに原因があると考えられます。これまで、説明を分割して「解説→操作→解説→操作」の繰り返しとし、「たくさんの解説に飽きないようにするための工夫」などをして来ましたが、更に「実習書に記載する説明文の追加」などを行い、改善していく予定をしております。「実習自体の安全性」を確保しながら、さらに今後の課題として何が改善できるかを模索し、学生諸君が興味を持って参加できる実習を続けて行きたいと考えています。

科目名：寄生虫学実習（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：104 配付数：102 回収数：101 回収率：99.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.7	4.5	4.4	4.5	4.2	4.4	4.3	4.4	4.4	4.1	4.1	4.0	4.1	4.2	4.3	4.3	4.3

***評価に対するコメント**

寄生虫学実習 担当教員

患者さんを目の前にして異種病原体（寄生虫）をほぼ間違いなく拾い上げる鑑別眼を養い、疑診される寄生虫疾患の確認に必要な適切な検査項目を正確に実施できる或いは認識できる医師が求められる。教科書やビデオから得られる映像だけを暗記すればよいという愚を犯さないでほしい。自分の五感により実物を体感する実習ができていくようで、教育目標がほぼ達成されていると判断する。

科目名：病理学実習（医学科第3学年前期／必修）
履修者数：104 配付数：79 回収数：49 回収率：62.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.9	4.9	4.6	3.6	4.3	3.6	4.3	4.1	4.2	4.0	3.8	3.8	3.3	3.9	4.1	4.3	4.0	3.9

***評価に対するコメント**

病理学実習 担当教員

病理学実習は顕微鏡観察を主体とする古典的なスタイルで行っている。腫瘍病理分野は、各回5、6枚の実習標本について、原則としてすべてをスケッチさせ、提出させた。アンケートによると、これは相当の負担であったようであるが、回を重ねるごとに多くの学生諸君の観察能力は確実に向上していた。自己評価の通り、ほとんどの学生は実習に粘り強く取り組んでいた印象であった。今後は、免疫病理分野とも密接に連携をとり、バーチャルスライド実習、症例検討など新しい試みも積極的に行っていきたい。

科目名：基礎看護技術学Ⅱ（看護学科第2学年前期／必修）
履修者数：59 配付数：59 回収数：46 回収率：78.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.2	4.8	4.7	4.5	4.6	4.5	4.5	4.1	4.5	4.7	4.0	4.2	4.1	4.3	4.4	4.4	4.3	4.4

***評価に対するコメント**

基礎看護技術学Ⅱ 担当教員

この科目はフィジカルアセスメント、採血、注射といった基礎看護技術を習得することが目的である。すべてが4点台の評価であり、総合評価も4.4、欠席等もほとんどなく、熱心に技術習得に取り組んでいた。授業のみでの技術習得は難しいので、今後も時間を創り、フィジコなどのモデルも活用して自己学習をしていただければと考える。

科目名：実践看護技術学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：55 回収数：39 回収率：70.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.6	4.5	3.9	3.4	4.1	3.6	2.9	2.9	3.4	3.2	2.8	3.2	3.6	2.9	3.4	3.6	3.7	2.9

***評価に対するコメント**

実践看護技術学Ⅱ 担当教員

実践看護技術学Ⅱは2009カリキュラムにおいて、新たに、看護の実践力を高めるため、3年次演習科目（60時間2単位）として、母性看護学・小児看護学・精神保健看護学の3領域で構成されています。学生自身の評価に関する項目の平均は3.7と高く、総合評価は2.9と低い。しかし、演習計画、内容、環境の平均は3.3と中間的な評価であった。異なる3領域を併せて評価することに対しては今後の検討課題となると思われませんが、さらに教育の充実に向けて努力していきたいと考えています。

臨地看護実習企画に対する学生評価

実習計画	問1 実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 問2 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実習内容	問3 実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 問4 実習中に課せられた記録・提出物の量は適切であった。 問5 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 問6 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 問7 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 問8 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実習環境	問9 教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 問10 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総合評価	問11 実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 問12 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）
④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通）
② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：基礎看護学実習（看護学科第1学年前期／必修）
履修者数：60 配付数：58 回収数：56 回収率：96.6%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.5	4.3	4.4	4.1	4.7	4.5	4.2	4.3	4.3	4.2	4.6	4.7

*評価に対するコメント

基礎看護学実習 担当教員

基礎看護学実習の目的は入院患者の生活を理解し、入院患者が受けている看護を理解すること、および看護実践に必要な基本的態度を身につけることです。これらの目的を達成することで看護を学ぶモチベーションを維持向上することがねらいです。評価はすべての項目が4.0以上であり、高い評価となっています。なかでも「実習によって看護職者を目指す意欲が十分高まった」4.6、「この実習は全体として満足できるものであった」4.7から実習のねらいは達成できたと考えます。この実習での学びやモチベーションを維持し、学内での学習を豊かなものとするよう各自が取り組むことを期待します。

科目名：成人看護学実習Ⅰ（看護学科第4学年前期／必修）
履修者数：59 配付数：59 回収数：23 回収率：39.0%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.8	3.8	4.1	3.7	4.1	3.7	4.2	3.7	4.0	4.2	4.2	4.0

*評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅰ 担当教員

成人看護学実習Ⅰでは、「実習環境がとても良かった」という自由記載がみられ、呼吸器・循環器センターと消化器センターの外科病棟・手術室・ICUのご協力で学生にとって満足感のある実習となっています。これからも関連機関との連携を深め、学生が満足できる実習を行いたいと思います。

科目名：成人看護学実習Ⅱ（看護学科第4学年前期／必修）
履修者数：59 配付数：59 回収数：24 回収率：40.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.0	3.9	3.9	3.8	4.2	3.9	3.8	4.0	3.8	4.2	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅱ 担当教員

「成人看護学実習Ⅱ」は、慢性疾患をもち生涯コントロールを要する対象者、あるいは人生の終焉を迎える終末期にある対象者の看護を行う実習で、1グループ5～6名の学生が3週間、病棟で実施しています。

23年度は病気とともに生きている慢性期や終末期にある対象者の理解を深めるため、発達課題や社会的役割などの心理・社会的側面を加えた「アセスメントガイドライン」「セルフケア・アセスメントシート」を21年度より継続して活用しています。そして、対象者のセルフケア能力に焦点を当てた看護支援について実践を通して学ぶことを期待しています。

23年度の学生評価は、全項目の平均値が前年度に比べ0.6ポイント上昇し、「全体の満足度」は4.1（22年度は3.4）で、特に「指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた」が4.2と1.2ポイント上昇しました。実習先病棟の協力を得て低値であった昨年度の状況を改善できたことをうれしく思います。そのほか、ほぼ毎日実施されているカンファレンスを負担に感じているという学生のコメントもありますが、4.0の評価であり、さらなる内容の充実をはかりたいと思います。

科目名：小児看護学実習Ⅱ（看護学科第4学年前期／必修）
履修者数：59 配付数：59 回収数：24 回収率：40.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.5	3.2	3.7	3.7	3.3	3.3	3.7	3.5	3.2	4.1	3.5	3.3

＊評価に対するコメント

小児看護学実習Ⅱ 担当教員

評価は全項目が3.0以上であり、概ね、学生の満足のいく実習に近づいているのではないかと考えます。

評価が高かったのは、「問10. 安全と事故防止に対する指導と配慮」でした。看護は患者の安全を守ることが最優先され、特に、小児は自らが危険回避をすることが難しい発達段階にあります。この項目の評価が高かったことは、学生が小児看護の重要な部分を学べたことを表していると考えます。

また、実習は看護の実際を学ぶ場です。学生は慣れない臨床の看護師と一緒にケアをすることに不安も多いと思います。しかし、看護の実際は臨床の看護師から学べることが多いと考えますので、教員や臨床指導者を積極的に活用して学んで欲しいと思います。

科目名：母性看護学実習（看護学科第4学年前期／必修）
履修者数：58 配付数：58 回収数：22 回収率：37.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.0	3.9	4.2	3.9	4.2	4.2	4.0	3.8	3.6	4.4	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

母性看護学実習 担当教員

本年の実習評価は、回収率の低さが目立つ。

評価方法の変更によるものと思われ、企画側の再考を求められていると考える。母性看護領域ではかねてより、学生の学びに応じたカンファレンスができるよう工夫をしているが、さらなる努力が必要と考える。

また、個々の学生の特性・能力を見極め対応することが、学生の尊重につながると考える。

科目名：精神保健看護学実習（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：58 配付数：58 回収数：23 回収率：39.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.8	3.9	3.6	4.1	4.3	4.2	3.9	4.1	4.5	4.2	4.2	4.3

***評価に対するコメント**

精神保健看護学実習 担当教員

精神保健看護学実習は、旭川医科大学病院と旭川圭泉会病院の臨床看護実習とデイケア施設、指定就労継続支援（B型）事業所で行いました。患者の個性や人間関係を重視し、コミュニケーション技術を用いて看護することなど主要な実習目標は、全体評価が4.3と高く、学習成果が得られていたと思われます。この実習での学びを今後の実践に活用されることを期待しています。

平成23年度 医学科第2学年後期編入生入学式

平成23年度医学科第2年次後期編入生入学式が平成23年10月3日(月)に事務局第一会議室におきまして執り行われました。

当日は吉田学長より編入生に対して祝辞が述べられ、新たに10名が旭川医科大学生としての第一歩を踏み出しました。

編入生は以下のとおりです。

北川 拓	小松 美貴子
飛澤 悠伊	朴 泰輝
山村 祐司	青木 惇
久木田 新	嶋田 英資
富田 晃史	日比野 幸子



吉田学長の祝辞



編入生との記念写真

外国人留学生交流事業

平成23年度の外国人留学生交流事業が10月30日（日）・31日（月）の2日間の日程で、本学に留学している学生とその家族、研究者として在籍する外国人及び関係教職員の8カ国、計25名が参加して実施されました。

この事業は旭川市内近郊だけではなく、北海道内の名所を外国人留学生及び帯同されている家族の方々に観てもらい、北海道の良さを再認識してもらうこととともに、様々な国から来日されている留学生同士の交流及び外国人留学生と教職員との交流を図ることを目的としたものです。

当日は、午後から旭川を出発し、札幌の野幌森林公園内にある北海道開拓記念館を見学しました。外国から来ている留学生にとって、北海道の歴史を垣間見ることができる展示物は、大変興味深かったのではないのでしょうか。その後、宿泊施設であるガトーキングダムサッポロに到着し、夕食の後にカラオケを交えた交流会が実施さ

れました。普段は話をする機会の少ない留学生と教職員とも、とても和やかな雰囲気の中で情報・意見交換が行われました。

翌日は、午前中に小樽水族館へ行き、迫力あるイルカショーや、オタリアやペンギンの可愛いショーなどを見学しました。その後、小樽運河沿いで昼食をとり、夕方に本学に到着し、外国人留学生交流事業が無事終了しました。



北海道開拓記念館にて



小樽水族館にて



懇親会

リーダーシップ表彰

平成23年11月22日（火）に事務局第一会議室におきまして本学学生リーダーシップ賞授与要項により、平成23年度医大祭実行委員長に対してリーダーシップ賞授与式が執り行われました。

当日は吉田学長より盾が授与され、輝かしい実績に対して祝辞が述べられました。

リーダーシップ賞授与者は右記のとおりです。

平成23年度 旭川医科大学医大祭実行委員長
医学科第4学年 萱場 幸太郎



リーダーシップ賞授与



医大祭実行委員長 萱場幸太郎

学 生 表 彰 式

平成23年10月11日(火)に事務局第一会議室におきまして本学学生表彰規程の第2条の(2)「課外活動で特に顕著な成果をあげた者又は団体」により優秀な成績を修めた学生に対して学生表彰式が執り行われました。

当日は吉田学長より表彰状と記念品が授与され、輝かしい成績に対して祝辞が述べられました。

表彰者は以下のとおりです。

第54回東日本医科学生体育大会柔道競技

男子団体戦 準優勝 柔道部(男子)



柔道部(男子)と顧問 原淵教授



吉田学長の祝辞

平成23年12月13日(火)に事務局第一会議室におきまして本学学生表彰規程の第2条の(3)「社会活動で特に顕著な成果をあげた者又は団体」により優秀な成績を修めた学生に対して学生表彰式が執り行われました。

当日は吉田学長より表彰状と記念品が授与され、輝かしい成績に対して祝辞が述べられました。

表彰者は以下のとおりです。

環境保全に関する国際会議に参加、提言書の策定等による社会活動及び地域貢献

医学科第6学年 佐藤裕基



学生表彰の授与

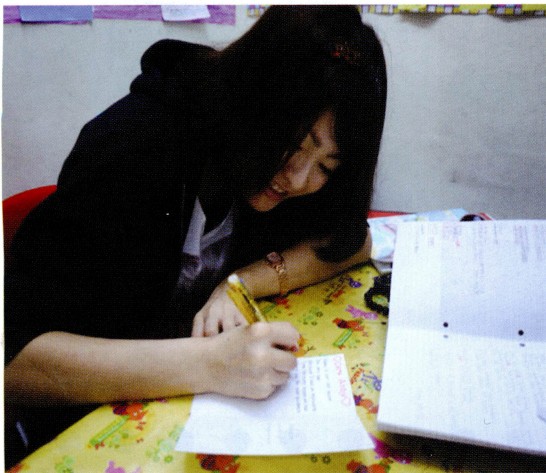


佐藤裕基(中央) 吉田教授(左) 坂本教授(右)

「海外留学」を経験して

看護学科4年 目黒 舞

私は、海外留学助成制度を活用させていただき、1カ月間フィリピンへ海外留学に行きました。海外留学を決意したきっかけは、長年抱き続けていた英語に対する劣等感の克服と大学院へ進学にあたって英語力が必要であったことから英語を学習しようと考え、語学学校への入学を決意しました。数多くある留学国の中からフィリピンを選択した理由は、元々発展途上国に興味があり発展途上国の抱える課題をはじめとする現状を自らで感じたいと思いフィリピンを選択しました。



マンツーマン授業風景

留学してすぐは、英語が理解出来ないことで何度もくじけそうになったり、その度に逃げ出したくなったり、以前に増して劣等感を抱くこともありました。しかし、自分の想いを英語で上手く伝えることが出来なくても多くの外国人と仲を深め、沢山の友

人が出来ました。このことから、英語はコミュニケーションを図る上で重要なツールであるが言葉以上に大切なことは伝えようとする努力と互いに思いやりを持つことだと感じました。

フィリピンには、150~180万人ものストリートチルドレンがいるといわれており、路上に出ると多くのストリートチルドレンと出会いました。実際にストリートチルドレンに金銭を要求されたり、路上で横たわる姿を目にすると心苦しくなりました。しかし、ストリートチルドレンに対し同情や憐みを抱くのではなく、理解していくことが必要なのではないかと思いました。具体的に何が出来るのかはまだわからないけれど今回の留学を通して、日本では感じる事のない現状にふれ多くのことを考えるきっかけとなりました。



フィリピンの子どもたち

また、フィリピンは貧困の差が激しく多くの人が豊かとはいえない生活を営んでいます。しかし、フィリピン人との関わりの中で生活の貧しさよりも心の豊かさや多くの笑顔が印象深く感じました。

1カ月の海外留学を終えて、英語のみならず数多くのことを学ぶことが出来、一生忘れることのない経験となったと感じております。また、多くの出会いと多くの人の支えが自分を大きく成長させてくれたこと、及び海外留学助成金を補助していただいた旭川医科大学に心より感謝しております。今回の留学での学びすべてをこれからの自分の人生にとって大きな財産としていきたいと思っております。



クラスメートとの集合写真

丘の上ジャズコンサート

平成23年11月30日（水）18時30分より、病院ロビースターボックスカフェ前にて、恒例の丘の上Jazzが開かれました。当日は、夕食後となる患者のみなさんも大勢

駆けつけ、カフェのテーブルは満席の大盛況でした。仕事帰りの教職員も足を止め、勉強の合間の学生たちもコーヒータイムの一時をJazzの音色に耳を傾けていました。



室内合奏団 クリスマスコンサート

室内合奏団は今年最後の活動として、12月17日に大学病院ロビーでクリスマスコンサートを行いました。Joy to the World, ひいらぎかざろう, ラストクリスマス等のクリスマスの定番曲の他、小編成ではマンフレディーニのクリスマス協奏曲という、クラシックの曲を演奏しました。多くの観客の前での演奏に、皆最初は緊張した様子でしたが、曲が進むにつれて演奏を楽しむ余裕も出てきました。

小編成の演奏中には手作りのプレゼントを、サンタ服を着た1年生が観客に配りました。観客と共に部員も楽しめた、1年間の活動を締めくくる良いコンサートになったと思います。

当日は、華道部の特別展示もあり、コンサートの音色にまさしく華を添える感じで和やかな時間の演出に一役買っていました。せっかくの華ですが、すぐに枯れ、散ってしまうので、かぐらおかの中に散らない写真で残させていただきたいと思い、紙面をお借りしたいと思います。

(学生支援課)



室内合奏団 代表 医学科第3学年
久保彰則



医学科第3学年
吉田 萌



医学科第3学年
今野杏美



医学科第4学年 高橋憲義



医学科第1学年 大野真梨子

合唱部クリスマスコンサート

12月17日、合唱部は今年もクリスマスコンサートとして「1月1日」から「Hallelujah」までの計12曲を医大病院ロビーにて演奏させて頂きました。例年増え続けてくださるお客さんの数と最後の曲としてずっとやり続けている「Hallelujah」の出来を聞いてみて合唱部の変化とその進化に改めて自分でも驚きを感じています。そこまでに成れたのは、顧問の鈴木先生を始めとした様々な方のご助力はもちろんですが、なにより部員の思うところに変化が有ったからではないかと個人的には思っています。

基本、合唱部という部活は兼部者が多く、大半の部員が他の部活との都合を何とかつけて練習に参加してくれる、そんな状況で部活をやっています。当然、各個人の練習量に差は出来ますし、全員が集まるのは当日一日だけなんというのが当たり前で、歌って楽しければそれでいい、といった状況が続いていました。ですが、ここ最近では部員

全員が「楽しく歌うことによる楽しさ」だけではなく、「綺麗に歌うことでの楽しさ」を感じるようになってきているように感じます。みんなで歌うことが合唱で、同時に人に聞いてもらって初めて音楽であります。それを自分で感じ、聞いてもらうのならよりよい音楽を届けたいと思い、そして、その思いに応え、熱意有る中心核のメンバーが牽引することで、今年のコンサートは音楽的な部分で近年の中でも最高の仕上がりを見せることができたと思います。

私も今年をもって部長を退きます。部活はさらに下の学年が中心となってすすめることになり部活の色も少しは変わるかもしれませんが、「楽しく歌おう、でも綺麗に歌える方がもっと楽しいよ!」という合唱の楽しさを損なわずに、これからもより楽しく研鑽を積んでいければと思います。

合唱部 代表 医学科第3学年 池田 淳平



ブラスアンサンブルクリスマスコンサート

クリスマスコンサートを終えて

2011年12月18日、旭川医大病院玄関ロビーにてクリスマスコンサートを開催させて頂きました。雪が降り続ける寒い日だったにもかかわらず、たくさんの方々に演奏を聴きに来ていただくことができ、私達部員も本当に楽しい時間を過ごすことができました。

映画やドラマの主題歌やアンサンブルなど、2時間余りの盛りだくさんな演奏会でしたが、「この演奏会を楽しみにしていたんだよ」「また聴きに来るね」といった感想を聞

くと、このように演奏会ができることが本当によかったと嬉しく感じます。毎回楽しく演奏させて頂いている私達にとって、聴いてくださった方々に楽しんでもらうことができれば何よりです。今年度最後の演奏会を楽しく終えることができ、聴きに来てくださった方々、そして、演奏会に関わってくださったみなさん、本当にありがとうございました。

ブラスアンサンブル 部長

看護学科第3学年 宮 沢 麻有加



ロック研究会ライブ

平成23年12月20日(火)、冬休み中の期間を利用して、本学の福利厚生棟のセミナー室でロック研究会がライブを行ないました。

外部に向けたお披露目のライブではなく、日頃の研究成果(練習の成果)を発表する場だったようです。

うまくいったバンドも、失敗してしまったバンドも、今

回がデビューとなったバンドも、もうベテランの域に達しているバンドも、情熱が伝わり、いい演奏だったと思います。

セミナー室は熱気がすごく、冬なのにみんな汗だくで盛り上がっていて、とてもいいライブでした。



教員の異動

H23.9.15	昇任	教育研究推進センター	教授	船越洋
H23.9.15	昇任	病院病理部	准教授	佐藤啓介
H23.9.15	昇任	医学部病理学講座	講師	青木直子
H23.10.1	昇任	医学部内科学講座	准教授	牧野雄一
H23.10.1	昇任	病院第二内科	講師	麻生和信
H23.10.1	配置換	病院第二内科	講師	安孫子亜津子
H23.11.1	採用	医学部健康科学講座	准教授	吉岡英治
H23.11.1	配置換	病院乳腺疾患センター	准教授	北田正博
H23.11.10	採用	病院眼科	講師	高宮央
H23.12.15	配置換	教育研究推進センター	准教授	佐藤啓介

インフォメーション

本学の行事予定（1月～3月）

後期試験週	医学科	1・2・3年	（2月13日～2月24日）
	医学科	4年	（1月24日～1月27日）
	看護学科	1年・2年	（2月13日～2月24日）

学力試験週	医学科	5年	（2月20日～2月24日）
-------	-----	----	---------------

平成24年3月23日 学位記授与式

平成24年度授業料の一括納付について

授業料は、前期分を納付する際に後期分も併せて年額として一括納付することができます。希望される方は、下記の期限までに印鑑を持参のうえ、事務局管理棟1階の会計課出納係へ申し出て下さい。

申込み期限 平成24年4月10日（火）

※一括（年額）納付については、毎年手続きが必要となりますので注意して下さい。

（会計課出納係）